

アゼルバイジャン語の yes-no 疑問文における疑問接語のふるまいについて *

吉村 大樹 **

0. はじめに

- アゼルバイジャン語の疑問文に関する調査報告¹
- 発表の要点
 - ✓ トルコ語とアゼルバイジャン語、ウズベク語での疑問接語の生起可能な位置の分布
 - ✓ 日本語と各チュルク諸語との疑問接語のふるまいの違い
 - ✓ 古代トルコ語のデータの示唆
- 今後の課題
- アゼルバイジャン語の基本情報
 - ✓ チュルク諸語南西語群（オグズ語群）、トルコ語、トルクメン語等と同じグループ
 - ✓ ラテン文字表記（1991年～）
 - ✓ 文法構造の概略
 - ◇ 音韻：母音9種、子音
 - ◇ 形態：典型的な膠着語の特徴、主要部・依存語の二重標示型(double-marking)言語
 - ◇ 統語：強い主要部後置傾向

I. 真偽疑問文（yes-no 疑問文）

1. yes-no 疑問文の平叙文との異なる特徴

書き言葉に限り疑問接語(miI)が使用される² (cf. Öztopçu 2012, Abdullayev 2007)

1-1 疑問文と平叙文を比較して、疑問文であることを表示するための語順の変更は特に見られない。ただし、疑問の焦点位置を明示化するために焦点化される語（または構

* 発表者は本発表に先立って、2014年3月28日から同年4月2日の間にかけて、国立国語研究所本プロジェクトの支援によるバクー市内（アゼルバイジャン）における現地調査の機会を得た。本発表は、その調査結果の報告である。またこの調査に先立って、インタビュー調査、および初稿の例文の発表者によるエラーの訂正にもご協力くださったアゼルバイジャン語コンサルタント（バクー出身、20代女性）、現地調査にご協力くださったコンサルタント（バクー出身、10代男性）に心からの謝意を表す。当然のことながら、本発表における責任はすべて発表者に属する。

** E-mail: taiki.wger1977@gmail.com

¹ 本発表ではアゼルバイジャン語の例文は、1991年に制定されたラテン文字表記法による正書法を用いて表示する。各文字に対応する音素は概略、以下の通りである。A(a)=/a/, B(b)=/b/, C(c)=/dʒ/, Ç(ç)=/tʃ/, D(d)=/d/, E(e)=/e/, Ə(ə)=/æ/, F(f)=/f/, G(g)=/ʃ/, Ğ(ğ)=/ɣ/, H(h)=/h/, X(x)=/x/, I(i)=/u/, İ(i)=/i/, J(j)=/ʒ/, K(k)=/k/, Q(q)=/g/, L(l)=/l/, M(m)=/m/, N(n)=/n/, O(o)=/o/, Ö(ö)=/œ/, P(p)=/p/, R(r)=/r/, S(s)=/s/, Ş(ş)=/ʃ/, T(t)=/t/, U(u)=/u/, Ü(ü)=/y/, V(v)=/v/, Y(y)=/j/, Z(z)=/z/. また、本文中の形態素の表示にはチュルク語学の伝統に従い、音韻形態表記を使用する。たとえば、疑問接語形式は miI と表示し、各種音韻論的環境に応じて変化する異形態 (mi, mɪ, mü, mu) の代表形であることを表す。

² 調査に費やした日数が限定されていることを考慮に入れる必要があるものの、発表者自身のバクー市内滞在中の観察では、口語での yes-no 疑問文についての疑問接語の出現はほとんど見られなかった。

成素) が述語の直前の位置に生起する

1-2 述語形態の変更は、上記の通り書き言葉において見られる。それ以外の変更はない。

- (1) a. Al-ır-am-mı / al-ır-san-mı / al-ır-mı / al-ır-ıq-mı / al-ır-sınız-mı / al-ır-lar-mı?
買う-現在-1 単-Q 買う-現在-2 単-Q ...
「私が買うのですか? (etc.)」 (松長 1999: 36)
- b. Gəl-di-m-mi / gəl-di-n-mi / gəl-di-mi / gəl-di-k-mi / gəl-di-niz-mi / gəl-di-lər-mi?
来る-過去-1 単-Q 来る-過去-2 単-Q ...
「私が来たか? (etc.)」 (松長 1999: 43-44)
- c. öyrən-əcəy-əm-mi / öyrən-əcək-sən-mi / öyrən-əcək-mi / öyrən-əcəy-ik-mi
学ぶ-未来-1 単-Q 学ぶ-未来-2 単-Q etc.
öyrən-əcək-siniz-mi / öyrən-əcək-lər-mi?
「私は学ぶのだろうか? (etc.)」 (松長 1999: 92)

1-3 疑問の焦点部分には、特に助詞を付加しない (イントネーションの上昇のみ)

1-4 形態・統語的観点：疑問接語の生起位置は、TAM の種別に関係なく常に人称語尾に後続→トルコ語との差異

2. yes-no 疑問文の抑揚上の特徴

口語では疑問接語を使用する代わりに、述語 (通常の語順では文末に来る) の抑揚を上昇させて yes-no 疑問文であることを表す。疑問の焦点位置を限定する場合は、当該する語のピッチも上昇させる

II. 疑問語疑問文 (WH 疑問文)

3. アゼルバイジャン語の疑問詞 (WH 詞)

- (2) a. kim 「誰」
b. hara/ hara-da 「どこ (で)」
c. nə 「何」
d. nə vaxt (いくつ-時) / (何 時間) / nə zaman (何 時) 「いつ」³
e. ni-yə (何-与格) 「なぜ」
f. ne-cə (何-副詞派生) 「どのように」
g. ne-çə (何-副詞派生) 「いくつ」
h. hansı 「どれ、どの」
i. ne-çə-nçi (何-副詞派生-序数派生) 「何番目の」

4 疑問語疑問文の平叙文と異なる特徴の有無

4-1 語順の変更：特にないが疑問語は述語の直前の位置に来やすい? (今後要調査)

³ なお、類似の表現に *hacan* という語もあるが、アゼルバイジャン語情報提供者からは標準語ではなく、話し言葉として使われているため、文法書等での記載はないのではないかという情報を得たことを付記しておく。

4-2 述語形態の変更はなし

4-3 特殊な助詞の付加はなし（疑問接語とは共起しない）

5. 疑問語疑問文におけるイントネーションの特徴

疑問語の（焦点としての）卓立: (3)

- (3) Bu gün kim ət al-dı?
この日 誰-主格 肉 買う-過去
「今日、誰が肉を買いましたか？」

6. 理由を問う「なぜ」、手段・方法を問う「どのように」の疑問文

特に他の疑問文と異なる特徴を持つとは思われない

7. 「いったい」のような意味を有する語が生起した場合

形態・統語的には特に他の構文との差異はないが、（発表者の観察では）文抑揚の下降が生じているように思われる

- (4) Sən-cə o kişi Pekin-ə gəl-əcək?
君-派生 あの男 北京-与格 来る-未来(:3sg)
「果たして、あの男は北京に来るでしょうか？」

III 間接疑問文

8. 生産的な間接疑問文の形式：

● 話し言葉：「V（-任意の TAM 接辞-人称形式） ya yox」

● 書き言葉：「(名詞-属格) 動詞-(y)Ib 動詞-mAyAcAĞ」

- (5) a. (Mən) bil-m-ir-əm, ata-m gəl-ən il ev tik-əcək,
私 知る-否定-現在-1 単 父-1 単 来る-分詞 年 家 建てる-未来
ya yox.
それとも ない

「お父さんが来年家を建てるかどうか、私は知りません」⁴

- a'. Ata-m-ın gəl-ən il ev tik-ib tik-mə-yəcəy-i-ni
父-1 単-属格 来る-分詞 年 家 建てる-副動 建てる-否定-未来-3 単-対格
bil-m-ir-əm.
知る-否定-現在-1 単

「お父さんが来年家を建てるかどうか、私は知りません」

- b. Ata-n-dan soruş, gəl-ən il ev tik-əcək
父-2 単-奪格 質問する：命令 来る-分詞 年 家 建てる-未来
ya yox.
それとも ない

⁴ なお、アゼルバイジャン語情報提供者からは以後類似する各例において、文頭の「ゼロ格」（つまり、格語尾が付与されない）1 人称代名詞(mən)がないほうが自然であるという指摘を得ている。これは、アゼルバイジャン語においてもいわゆる pro 脱落型言語であることを示唆している。本発表の内容とは直接関連しないため、以後文頭のゼロ格代名詞は括弧で表示することとする。

「お父さんが来年家を建てるかどうか、聞いてきてください」

b'. Ata-n-dan gəl-ən il ev tik-ib tik-mə-yəcəy-i-ni
父-2 単-奪格 来る-分詞 年 家 建てる-副動詞 建てる-否定-未来-3 単-対格
soruş.

質問する:命令

「お父さんが来年家を建てるかどうか、聞いてきてください」

c. Ata-n-ın gəl-ən il ev tik-ib tik-mə-yəcəy-i-ndən
父-2 単-属格 来る-分詞 年 家 建てる-副動詞 建てる-否定-未来-3 単-奪格
asılı ol-araq, (mən-im) plan-lar-ım dəyiş-ə bil-ər.
基本 ある-副詞 私-属格 計画-複数-1 単 変わる-連用 可能-現在

「お父さんが来年家を建てるかどうかによって、私の計画が変わります」

c'. Mən-im plan-lar-ım ata-m-ın gəl-ən il ev tik-ib
私-属格 計画-複数-1 単 父-1 単-属格 来る-分詞 年 家 建てる-副動
tik-mə-yəcəy-i-ndən asılı-dır.
建てる-否定-未来-3 単-奪格 基本-繫辞

「お父さんが来年家を建てるかどうかによって、私の計画が変わります」

d. Gəl sən-ə, ata-m-ın gəl-ən il ev tik-ib
来る:命令 君-与格 父-1 単-属格 来る-分詞 年 家 建てる-副動詞
tik-mə-yəcəy-i-ndən danış-ım.
建てる-否定-未来-3 単-属格-奪格 話す-現在-1 単

「お父さんが来年家を建てるかどうか、教えてあげましょう」

→その他、補遺例文(8-13)等を参照

9. 間接疑問文であることを明示する特徴

- 語順：特記事項なし、ただし「動詞 ya yox (それとも+ない)」の2語を追加
- 接辞：特記事項なし
- 補文化辞：動詞は分詞化(名詞化?) (cf. Erguvanlı 1984)し、意味上の主語を表す属格名詞と人称・数の一致を伴う(cf. (4a-d))
- 間接疑問文における yes-no 疑問文と疑問詞疑問文の差異は特に見当たらない
- 参考：間接 yes-no 疑問文と語順の関係：(5a)と比較して(5b)は発話時に聞き手からの情報を知りたい、というニュアンスが含まれる

(6) a. (Mən)bil-m-ir-əm, ata-m gəl-ən il ev tik-əcək-(mi),
私 知る-否定-現在-1 単 父-1 単 来る-分詞 年 家 建てる-未来(-Q)
ya (yoxsa) tik-mə-yəcək- (mi).
それとも 建てる-否定-未来-Q

「お父さんが来年家を建てるか建てないか、私は知りません」

b. Ata-m gəl-ən il ev tik-əcək-mi ya
父-1 単 来る-分詞 年 家 建てる-未来-Q それとも
tik-mə-yəcək-mi bil-m-ir-əm.
建てる-否定-未来-Q 知る-否定-現在-1 単

「お父さんが来年家を建ててるか建てないか、私は知りません」

10. その他の事項

● アゼルバイジャン語における疑問接語の出現環境と生起位置

- ✓ (主節の) 述語の直前の位置に生起可能(Öztopçu 2012, Hüseyinzadə 2007, Musaoğlu 2008)

- (7) a. Nazim kitabxana-ya bu gün-mü get-di? (Öztopçu 2012: 300)
ナズィム 図書館-与格 今日-Q 行く-過去 (: 3 単)
「ナズィムは図書館に今日行ったの?」(疑問の焦点は節全体ではなく「今日」)
- b. Nazim bu gün kitabxana-ya-mı get-di? (Öztopçu 2012: 300)
ナズィム 今日 図書館-与格 Q 行く-過去 (: 3 単)
「ナズィムは今日図書館に行ったの?」(疑問の焦点は「図書館に」)
- c. Kitabxana-ya bu gün Nazim-mi get-di? (Öztopçu 2012: 300)
図書館-与格 今日 ナズィム-Q 行く-過去 (: 3 単)
「図書館に、今日ナズィムが行ったの?」(疑問の焦点は「ナズィム」)

- ✓ それ以外の文末以外の位置に来ることができるか?
- ✓ 口語でも疑問接語を全く使用しないか? → 今後の調査
- ✓ 情報構造との関連: 述語の直前の位置は疑問文に限らず焦点位置

● 疑問接語を伴わない yes-no 疑問文の語順

- ✓ 特定の語(句)に対して音調上の際立ちを伴うか、疑似分裂文を使用

- (8) a. Əli kitab-ı Ayışə-yə ver-di?
アリ 本-対格 アイシェ-与格 与える-過去
「アリは本をアイシェにあげたのですか?」
- a'. Əli kitab-ı Ayışə-yə ver-di?
アリ 本-対格 アイシェ-与格 与える-過去
「アリは本をアイシェにあげたのですか?」
- a''. Əli-nin kitab-ı ver-diy-i şəxs Ayışə-dir?
アリ-属格 本-対格 与える-分詞-3 単 人 アイシェ-繫辞
「アリが本をあげたのはアイシェですか?」⁵
- b. Əli Ayışə-yə kitab ver-di?
アリ アイシェ-与格 本 与える-過去
「アリはアイシェに本をあげたのですか?」
- b'. Əli-nin Ayışə-yə ver-diy-i kitab-dir?
アリ アイシェ-与格 与える-分詞-3 単 本-繫辞
「アリがアイシェにあげたのは本ですか?」

⁵ (8a'') のような例では、主文の述語は事実上名詞になっている。アゼルバイジャン語では、トルコ語と異なり述語の主語が 3 人称の場合は、繫辞的機能を有する -dir が付加される。この形式の付加はトルコ語にも見られるが、トルコ語の場合は文構造の適格性にこの形式の付加が関与しないのとは対照的に、アゼルバイジャン語ではこの形式の付加が義務的であることが各種文法書で指摘されている(cf. Öztopçu 2012 etc.)。

c. Əli kitab-ı Ayışə-yə ver-di?
 アリ 本-対格 アイシエ-与格 与える-過去
 「アリが本をアイシエにあげたのですか？」

c'. Ayışə-yə kitab-ı ver-ən Əli-dir?
 アイシエ-与格 本-対格 与える-分詞 アリ-繫辞
 「アイシエに本をあげたのはアリですか？」

● 他言語との対照

- ✓ 生起可能な位置の範囲はトルコ語に比べると限定的
- ✓ 参考：ウズベク語では文末にしか生起しない
- ✓ 日本語との対照
 - ◇ 接語（または小辞）による疑問文の標示方法の違い
 - ◇ 疑問を標示する形式の省略について
 - 調査票に基づく(1-3)の例文では、疑間接語（または Q 素性）が陰在的に移動している(Hagstrom 1998, Aygen 2007, Yücel 2012)と言えるのか？
 - 日本語の「か」「の」の生起可能な環境とアゼルバイジャン語の疑間接語の生起可能な環境は本質的に異なるのではないか？
- ✓ トルコ語キプロス方言(cf. Demir 2009): 疑間接語 mI の省略傾向。
 - ◇ ただし、アゼルバイジャン語の場合と対照して、疑間接語の省略において文末の最終母音が長音化するかどうか異なる
 - ◇ 文末の述語部分のピッチの急降下を伴う⁶

(9) a. Sen başka şehir-e git-mek isti-yo-ñ?
 君 他の 都市-与格 行く-不定 望む-進行-2 単
 「君、他の街に行きたい？」(発表者による採集例)⁷

b. Bilet var?
 チケット ある
 「チケットはありますか？」(発表者による採集例)

● 通時的観点

- ✓ 古代トルコ語：「yes/no 疑問文は後接語の小辞 mU で表す。また、疑間接語は文中に生起して特定の構成素を焦点化している」(Erdal 1998: 152)⁸

(10) Qayan mu qısayın?(Erdal 1998: 152)
 王 Q する-TAM : 1 単
 「(私は) 彼を王にすべきなのか？」

⁶ この観察の音声学的な実証については、今後の課題としたい。

⁷ この採集例における文末の述語形式について、最終子音の正確な音韻は確認できなかった。ここでは Demir (2009)を参考に、文主語は2人称単数の主語であることなどを考慮にいれ、便宜的に鼻音/ñ/であると仮定している。

⁸ Erdal (1998)で使用されている古代トルコ語の例文は、7-10 世紀のルーン文字による碑文、9-13 世紀の古代ウイグル碑文、11 世紀のカラ=ハン朝期のアラビア文字による文献を基にしている(Erdal 1998: 138)。ただし、下記(10)の例文が上記のどのコーパスから抽出されたのかについては明記していない。

- ✓ 現代トルコ語だけが古代トルコ語の疑間接語の特徴を保持している？それ以外のチュルク諸語、たとえばウズベク語では時間の変遷とともに生起位置が文末位置に限定されてしまったが、アゼルバイジャン語ではトルコ語と文末に限定されるチュルク語 (e.g. ウズベク語) の中間的な段階にある (かもしれない？)

11. おわりに

- 今後の課題：
 - ✓ アゼルバイジャン語の疑間接語の出現可能な生起位置のさらなる調査
 - ✓ 疑間接語の省略には談話、または機能に関する制約は本当に存在しないのか

参考文献

- Abdullayev, Əlövsət (et al.) (2007) *Müasir Azərbaycan Dili: Sintaksis* (『現代アゼルバイジャン語：統語論』). Bakı: Şərq-Qərb.
- Aygen, G. (2007) Q-particle. *Journal of Linguistics and Literature*. 4-1.
- Besler, Dilek (2000). *The Question Particle and Movement in Turkish*. Unpublished MA thesis, Boğaziçi University.
- Demir, Nurettin (2009). Kıbrıs Ağızlarındaki Tipik Özellikleri. (「トルコ語キプロス方言における典型的な諸特徴」.) Öztürk, Rıdvan (ed.) *Kıbrıs Konuşuyor: Kıbrıs Ağzı Üzerine İncelemeler*. (『キプロスは語る：キプロス方言に関する研究』) İstanbul: Kesit Yayınları. 17-28.
- Erdal, Marcel (1998) Old Turkic. In Johanson, Lars and Csató (eds.) *The Turkic Languages*. London / New York: Routledge. 138-157.
- Hüseynzadə, Muxtar (2007) *Müasir Azərbaycan Dili: Morfologiya* (『現代アゼルバイジャン語：形態論』). Bakı: Şərq-Qərb.
- 松長昭 (1999) 『アゼルバイジャン語文法入門』. 東京：大学書林.
- Musaoglu, Mehman (2008) Azerbaycan Türkçesinde Fiil Çekimi (「アゼルバイジャン語における動詞の屈折」). *Türkiyat, Türklük Bilimi Araştırmaları Dergisi*, Ankara: Gazi Üniversitesi Türkiyat Araştırma ve Uygulama Merkezi. 11-29.
- Öztopçu, Kurtuluş (2012). *Elementary Azerbaijani* (2nd Edition). Los Angeles/ Istanbul: Türk Dilleri Araştırmaları Dizisi 33.
- 佐藤久美子 (2013) 『小林方言とトルコ語のプロソディー：一型アクセント言語の共通点』. 九州大学出版会.
- Schönig, Claus (1998) Azerbaijani. In Johanson, L. and Csató, É. (eds.) *The Turkic Languages*.
- 田窪行則 (2011) 『日本語の構造—推論と知識管理—』. 東京：くろしお出版.
- Yücel, Özge (2012). What moves where under Q-movement? In Kincses-Nagy, É. and Biacsi, M. (eds.). *The Szeged Conference: Proceedings of the 15th International Conference on Turkish Linguistics*.